

第54回特別展

道標 一生のあかしを刻む

神戸が生んだ現代彫刻の巨匠

柳原義達展

神戸市出身の柳原義達氏（1910～）は、フランス近代彫刻の流れに連なる戦後日本の具象彫刻の分野に独自の世界を築いた作家の一人として、高く評価されています。「犬の唄」に代表される女性像、鳩や鴉をモチーフとした「道標」シリーズを中心に、氏は緊張感に満ちた造形性を備え、自然や生命の本質に迫ろうとするヒューマニズムに裏打ちされた作品を80歳を越えた現在まで一貫して制作し続けています。当館は柳原義達氏の作品を購入し、また作家自身の寄贈によるデッサン、彫刻作品も所蔵しています。本展は、初期から最新作にいたる代表的な彫刻作品とデッサンによって柳原芸術の軌跡をたどり、作品の意義を検証しようとする試みでした。

会期／平成8年9月14（土）～10月20日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室

主催／神戸市立博物館、柳原義達展実行委員会、美術館連絡協議会、読売新聞大阪本社

協賛／花王株式会社

協力／生活協同組合コープこうべ生活文化センター

開催日数／32日

入館者数／7, 777人（243人／日）

出品件数／136点（彫刻75点、デッサン61点）



※この図録は現在当館では扱っておりません。



高瀬さんの首



道標・鴉